

令和元年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：馬彪、高橋征仁

研究分担者：田中晋作、谷部真吾、小林宏至、富平美波、更科慎一

研究協力者：なし

○研究の概要と結果

歴史学・考古学・社会心理学・民俗学・文化人類学・中国語学の各領域の研究者が、それぞれの研究手法に基づいて、日本と中国の過去・現在の諸相をとらえ、その背景に、東アジア地域特有の文化が歴史とともに伝承されている事実が存在することを明らかにすべく試みて、各々に着実な成果をあげた。

馬彪教授は、中国古代史、特に王莽政権時期の改制の研究に従い、学術論文3編を公表したほか、口頭発表2件を行い、著書（共著）1冊を著した。

田中晋作教授は、日本の古市古墳群に関する論文2編を発表したほか、地元山口の周防鑄銭司跡の調査研究を主導し、学会で基調講演を行った。

高橋征仁教授は、福島原子力発電所事故の被災者の調査を続けており、招待講演2件を行った。ほか、社会統計学に関する著書（共著）を1冊著した。

谷部真吾准教授は、日本国内の祭礼の研究を進め、論文1編を公表した。

小林宏至准教授は、中国をフィールドに主として客家の研究に従事し、中国と台湾において招待講演3件を行ったほか、著書（共著）2冊を著した。

富平美波教授は、中国清朝時代の音韻学文献『續通志』『七音略』の研究を行い、論文1編を公表した。

更科慎一准教授は、中国における過去の言語接触について研究を進め、中国で招待講演1件を行ったほか、著書（共著）1冊を著した。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

馬彪「王莽の長安都改造について」河合文化教育研究所『研究論集第14集』2019年6月p103-117

馬彪「試論新（莽）皇帝之改元、即位與建國宣言」『異文化研究』第14号，令和二（2020）年三月p15-23

馬彪「王莽における封国制改革の研究— その「空名」化改革の由来と特徴をめぐる—」『山口大学文学会志』第70巻，令和二（2020）年三月p1-23

田中晋作「古市古墳群「中・小型主墳」の被葬者の性格」『白石太一郎先生傘寿記念論文集 古墳と国家化形成期の諸問題』山川出版社 34-38頁 2019年10月

田中晋作「古市古墳群高塚山古墳の調査について」『大阪春秋』第47巻第4号（No.177） 58-61頁
2020年1月

谷部真吾「高度成長期における祭礼の変容 —富山県高岡市の伏木曳山祭を事例として—」和崎
春日（編）『響き合うフィールド 躍動する世界』刀水書房 23-40頁 2020年3月

富平美波「『續通志』「七音略」の格子門法をめぐって」『山口大学文学会志』第70巻 83-107頁
2020年3月

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

馬彪「社会史研究方法縦横談」（中国、寧夏大学）

馬彪「中国古代「規矩」「方圓」与「標準化」」（中国、寧夏師範大学）

高橋征仁「原発避難は終わっていない—沈黙する避難者たち」「避難の権利」を求める全国避難
者の会2019年年会、山口大学2019年5月11日（招待あり）

「放射能汚染をめぐる沈黙と忘却」日本倫理学会第70回大会、山口大学、2019年10月4日（招待あり）

田中晋作 基調講演「古代の山口と周防鑄銭司跡」2019年度九州考古学会夏季大会（山口大会）
2019年7月

小林宏至「東アジア社会における現在の「青色」の変遷をめぐって」 东亚文化交流——艺术与”
国际学术研讨会 2019年12月7日 中国：浙江工商大学东亚研究院（招待あり）

小林宏至「茂木計一郎と客家研究」百年往返 2019年10月5日 台湾：国立交通大学（招待あり）

小林宏至「客家社会と親族研究」中日人類学學術シンポジウム 2019年9月13日 中国：中央民族
大学（招待あり）

更科慎一「《华夷译语》音译汉字及现代北京话的入声字」 第一届北京话学术研讨会暨《早期北京
话珍本典籍校释与研究》新书发布会 2019年8月31日 中国北京：北京大学（招待あり）

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

馬彪；张伟国等（共著）『经典之内 历史地理篇』华夏出版社2019/9

片瀬一男；阿部晃士；林雄亮；高橋征仁（共著）『社会統計学アドバンス』ミネルヴァ書房2019年
12月10日

古松崇志；更科慎一等（共著）『金・女真の歴史とユーラシア東方』勉誠出版 2019/5

飯島典子；小林宏至等（共著）『客家:歴史・文化・イメージ』現代書館 2019/5

小林宏至；吉野 晃等（共編著）『ダメになる人類学』北樹出版 2020年3月31日

○プロジェクト名

アジアの教育と文化におけるグローバル化

○研究組織

研究代表者：葛崎偉，有元光彦

研究分担者：石井由理，北沢千里，熊井将太，鷹岡亮，田中理絵，中田充，松岡勝彦，
森下徹，山本冴里，吉村誠

研究協力者：なし

○研究の概要と結果

令和元年度では、本プロジェクトメンバーが各自の専門領域において共同研究への基盤形成を行うことを目的とした。本プロジェクトの大きな方向性は、「各国・民族の文化の独自性を追究する面（個別性）」及び「科学の普遍的な原理を解明する面（普遍性）」の2つであった。前者においては、文学、言語学、言語教育、歴史学、音楽教育などで、日本および他のアジア諸国の文化や言語の独自性に焦点を当てた研究が継続された。一方、後者においては、教育学、情報教育、情報科学、生物学で、普遍的な理論の検証を主として、アジア/日本の事例を用いて進めていく研究が推進された。また、近年の文部科学省の政策では教員養成学部の実践者に対して教育実践に関わる研究内容を求める傾向があるため、従来の研究に加えて、それぞれの専門分野の教育実践に関わる研究も実施された。

研究成果として、多様な研究成果が数多く発表された。以下に、業績件数を挙げる。

まず、論文数（著書、学会発表を含まない）においては25件の成果があった。そのうち、査読付き論文が9件あった。国際共著論文は1件あった。学会発表は、国内発表が42件、国外発表が4件あった。また、著書においては6件あった。以上のすべての論文数（著書、学会発表を含む）は78件である。

科研費においては、申請件数が23件（内、新規7件、継続16件）、そのうち採択件数が19件（内、新規3件、継続16件）という成果であった。

その他の業績においては、4件あった。いずれの成果も地域貢献という点で評価できる。さらに、小中学校等の教育現場に赴き実地指導を行うという教育研究業績が教育を専門とする各メンバーに数十件ずつある。これは、論文のように可視的な業績ではないが、本プロジェクトに関する業績として高く評価できるものである。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- 趙樹娟・田中理絵「外国にルーツをもつ児童の学級トラブルに関する研究」『山口大学教育学部研究論叢』第69巻，2020年1月，65-72.
- 褚蕾・田中理絵「幼稚園教諭のストレス要因に関する日中比較研究」『山口大学教育学部研究論叢』第69巻，2020年1月，57-64.
- 柴田勝・中田充・五島淑子「教員養成学部における情報ツール活用能力の育成を目的とした機械学習を取り入れた生物学実験 ～植物の分類を通じたAIアルゴリズムと生物実験の理解に与える影響～」『山口大学教育学部研究論叢』第69巻，2020年1月，151-160.
- Bao, N. Zhang,H. Morita,M. Nakata,Q.W.Ge, “Subnets Generation of Program Nets and Its Application to Software Testing”, IEICE Trans. Fundamentals E102-A(9), 2019年9月, 1303-1311.
- 田中良研,中田充, Ozobot 2.0 Bit を用いたプログラミング教育の実践, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 (48) 2019年9月 151-160

- 安・呉・中田充・葛崎偉「東洋医学における舌診の支援システムの開発について」『電子情報通信学会信学技報』Vol.119, No.314, 2019年, 11-14.
- Y.Sato, A.Kashihara, S.Hasegawa, K.Ota, R.Takaoka, “Promoting Reflection on Question Decomposition in Web-based Investigative Learning”, Proceedings of the 27th International Conference on Computers in Education. (ICCE), vol. I, Kenting, Taiwan, 2019年12月6日, 75-80.
- M.Hagiwara, A.Kashihara, S.Hasegawa, K.Ota, R.Takaoka, “Adaptive Recommendation for Question Decomposition in Web-based Investigative Learning”, The 2019 IEEE International Conference on Teaching, Assessment, and Learning for Engineering (TALE), Yogyakarta, Indonesia, 2019年12月11日, 750-757.
- A.H.Setiawan and R.Takaoka, “Designing PBL steps in vocational course based on students' readiness and teachers' discussion”, Journal of Physics: Conference Series (ICTVT2019), Vol.1456, No.012045, IOP Publishing, 2020年2月11日, 1-9. (<https://iopscience.iop.org/article/10.1088/1742-6596/1456/1/012045/pdf>)
- 山本冴里「自律的な外語学習を支えるクラスの実践報告—ひとつの教室で10を超える言語が学ばれるとき」『複言語・多言語教育研究』第7号 日本外国語教育推進機構 (JACTFL) (印刷中)
- 山本冴里「Citizenshipの育成は、第二言語教育とどのように関わるか—汎ヨーロッパレベルでの議論の経緯とその達成」『言語文化教育研究』第17巻,言語文化教育研究会,(2019)pp.53-70.
- Kasahara M, Kobayashi C, Yamanaka A, Kitazawa C., “Regeneration of the cell mass in larvae of temnopleurid sea urchins”, Journal of Experimental Zoology Part B: Molecular and Developmental Evolution, 2019年10月26日, 332: 245-257 (表紙).
- Yamanaka A, Takuwa Y, Kitazawa C., “Experimental hybridization of sympatric temnopleurid sea urchins living in Yamaguchi, Japan”, Zoosymposia, 2019年10月21日, 15: 212-228.
- Kitazawa C, Yamanaka A., “First evidence of autofluorescence of a cell mass in developing temnopleurid sea urchins”, Zoosymposia, 2019年10月21日, 15: 98-105.
- Ishii, Yuri, “A Proactive Approach Toward Intercultural communication: An Experimental Course in a Teacher Training Program at Yamaguchi University”, 『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第49号, 2020年3月25日, 1-10.
- 葉李可・石井由理「中国の英語教科書に見られる国際理解教育の視点」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第49号, 2020年3月25日, 85-94.
- 有元光彦「非テ形現象・擬似テ形現象の崩壊に関する予備的考察—宮崎県北西部方言を対象として—」『研究論叢 (山口大学教育学部)』第69巻, 2020年1月, 261-270.
- 黒崎貴史・有元光彦「行為を表す新語の形成方法について—「観察型」「共感型」という視点を用いて—」『研究論叢 (山口大学教育学部)』第69巻, 2020年1月, 251-260.

(2) 口頭発表 (発表者名、テーマ名、学会等名、年月日)

- 中田充・藤本満士・森寛文・鷹岡亮, 山口県における小学校プログラミング教育のための教員研修の現状と課題, 日本情報科教育学会第17回九州・中国・四国支部研究会招待講演, 2019年

12月15日.

- 中田充・森寛文・藤本満士・鷹岡亮・葛崎偉, プログラミング教育に求められる教員の資質能力と教員研修に関する考察, 電子情報通信学会技術研究報告, 2019年10月19日.
- 森寛文・藤本満士・中田充, プログラミング的思考を学ぶ研修モジュールの紹介と体験, 日本情報科教育学会 (JAEIS) 第12回全国大会, 2019年7月21日.
- 萩原未来・柏原昭博・長谷川忍・太田光一・鷹岡亮, Web調べ学習における適応的な部分課題推薦手法の評価, 教育システム情報学会2019年度第2回研究会, Vol.34, No.2, pp.51-58, 2019年7月14日.
- 横山誠・鷹岡亮・中田充・霜川正幸・藤上真弓, 遠隔合同授業支援ツールにおける協調的思考活動支援機能について, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.119, no.236, ET2019-32, pp.1-4, 2019年10月23日.
- 鷹岡亮・加藤直樹・横山誠・上市善章・芳賀敬輔・村松 祐子, 豊かな学びのデザインマップを活用した大学における授業実践とeポートフォリオの支援機能について, 教育システム情報学会2019年度第6回研究会, 2020年3月14日 (in press).
- 萩原未来・柏原昭博・長谷川忍・太田光一・鷹岡亮, 学習者のWeb調べ学習スキルに応じた演習問題生成, 教育システム情報学会2019年度第6回研究会, 2020年3月14日 (in press).
- 佐藤禎紀・柏原昭博・長谷川忍・太田光一・鷹岡亮, 主体的なWeb調べ学習プロセスの診断に基づく支援手法, 人工知能学会第33回全国大会, 2019年06月04-07日.
- 鷹岡亮・阿濱茂樹・島剛彦, 産業財産権の必要性を理解するための教員養成系学部の授業実践と評価, 日本情報科教育学会第12回全国大会講演論文集, 3-B-3, pp.63-64, 2019年7月21日.
- 加藤直樹・鷹岡亮・上市善章・村松祐子・芳賀敬輔・山崎宣次・及川浩和, 「豊かな学びマップ」を活用した学習活動デザイン, 日本教育情報学会第35回全国大会講演集, pp.105-108, 2019年8月24日.
- 横山誠・鷹岡亮・大塚祐亮, 遠隔合同授業支援環境における比較思考活動支援機能について, 教育システム情報学会第44回全国大会, pp.205-206, 2019年9月5日.
- 山本冴里・富本浩一郎, あらゆる言語を価値づける一年少期における『言語への目覚め活動』教材作成・試用報告, 第32回日本語教育連絡会議, ウィーン大学, 2019年9月.
- 山本冴里, 外国語教室における「政治教育」とは? - 日中大学生へのインタビュー調査から, 第23回AJEヨーロッパ日本語教育シンポジウム, ヨーロッパ日本語教師会 (AJE), 2019年8月.
- 山本冴里, 「日本語だから言えた」-第二言語としての日本語使用と自由の感覚-, 2019年度日本語教育学会春季大会, 日本語教育学会, 2019年5月.
- 山本冴里, 新しい言語を勉強するというのは, 旅をすること:ゼロベースからの社会参加, AATJ 2019 Annual Spring Conference, Denver, USA, 2019年3月.
- 山本淳一・松岡勝彦ほか, 発達障害児を支える就学移行支援-応用行動分析学による支援効果-, 日本特殊教育学会, 2019年9月22日.
- 松岡勝彦・須藤邦彦ほか, 行動コンサルテーションの今日的課題を考える-コンサルティとの関係づくりに注目して-, 日本特殊教育学会, 2019年9月23日.
- 森下徹, 秋田藩成立期の藩財政を読む-軍役と藩大使絵の確立をめぐる-, 第100回啓静文庫

調査ワークショップ，於立教大学，2019年12月16日。

- 森下徹「武家奉公人論と地域研究の立場から」，大阪歴史科学協議会例会，於クレオ大阪中央，2019年12月14日。
- 北沢千里・山中明，サンショウウニ科ウニ類の発生過程における細胞塊の自家蛍光について，2019年度中国四国地区生物系三学会合同大会広島大会，2019年5月11日。
- 山本響・小島渉・北沢千里・山中明，ムラサキシジミ成虫の複眼の色彩変化について，2019年度中国四国地区生物系三学会合同大会広島大会，2019年5月11日。
- 前田瑞生・山本響・北沢千里・山中明，ムラサキシジミ幼虫の体色調節機構の解析，2019年度中国四国地区生物系三学会合同大会広島大会，2019年5月12日。
- 福田真由・馬場彩樺・小島渉・北沢千里・山中明，サカハチチョウにおける蛹体色の調節機構について，2019年度中国四国地区生物系三学会合同大会広島大会，2019年5月12日。
- 前田瑞生・山本響・北沢千里・小島渉・山中明，赤色型のムラサキシジミ幼虫が生じる環境要因の検討，令和元年度西日本応用動物昆虫研究会・中国地方昆虫学会合同例会，2019年10月4日。
- 清水朝子・山中明・北沢千里，チビイトマキヒトデのブラキオラリア幼生期における再生能，第16回棘皮動物研究集会，2019年12月7日。
- 檜谷昂毅・山中明・北沢千里，ウニ正中線切断幼生における幼生腕の再生過程について，第16回棘皮動物研究集会，2019年12月7日。
- 前田瑞生・北沢千里・小島渉・山中明，ムラサキシジミの成虫に季節型は存在するのか？，2019年度中国四国動物生理シンポジウム，2019年12月14日。
- 馬場彩樺・北沢千里・小島渉・山中明，人工飼料によるツマグロヒョウモンの累代飼育の可能性について，2019年度中国四国動物生理シンポジウム，2019年12月14日。
- 大野瑠璃・前田瑞生・北沢千里・小島渉・山中明，ウラギンシジミ幼虫の体色を決める環境要因とその調節，日本農芸化学会中国支部第56回講演会（例会），2020年1月25日。
- 前田瑞生・山本響・北沢千里・小島渉・山中明，ムラサキシジミ幼虫の赤色化に関する知見，日本農芸化学会中国支部第56回講演会（例会），2020年1月25日。
- Yuri Ishii, "Potential for proactive interculturality in Japan's schools and teacher training programs", *Inter Culturality in Teacher Education and Training*. Karlstad University, Sweden, June 17-19, 2019.
- Yuri Ishii, "Curriculum reforms towards the inclusion of diverse others: Japanese school education in transition", 7th Annual International Conference on Education: Children's perspective on school, teaching, learning and technology. California State University Fullerton, November 4-6, 2019.

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- 田中理絵「散在地域の小学校における日本語教室の役割と課題」『成長するアジアにおける教育と文化交流』，石井由理・熊井将太（編集責任），溪水社，2020年3月23日，115-136。
- 松岡勝彦「第3章 認知行動療法の適用範囲「知的能力障害」」『認知行動療法事典』，認知行動療法学会編，丸善出版，2019年9月。

- 森下徹「蔵屋敷から見る民衆世界」『シリーズ三都 大坂巻』, 塚田孝編, 東京大学出版会, 2019年7月, 49-58.
- 森下徹「岩国藩大坂蔵屋敷の設置と都市社会」『中日城市史研究論集』, 馬学強他編, 商務印書館, 2019年9月, 288-300.
- 森下徹「東アジアのなかの近世日本」『成長するアジアにおける教育と文化交流』, 石井由理・熊井将太(編集責任), 溪水社, 2020年3月23日, 175-185.
- 森下徹「紹介: 塚田孝『大坂の非人』・同『大坂民衆の近世史』」『人権と部落問題』9241号, 2019年6月, 62-64.
- 北沢千里・山中明・赤星冴「第七章 原点回帰—理科, 特に基礎生物教育について日本とアジアを視点に一考する—」『成長するアジアにおける教育と文化交流』, 石井由理・熊井将太(編集責任), 溪水社, 2020年3月23日, 104-114.
- Saeri Yamamoto, "The sea": Benefits of discussing controversial issues in second/foreign language teaching, *The Global Education Effect in Japan*, Neriko Musha Doerer(eds), Routledge: New York, 2020年, 191-231.
- 石井由理「音楽教育を通して見たアジアの近代化と文化交流」『成長するアジアにおける教育と文化交流』, 石井由理・熊井将太(編集責任), 溪水社, 2020年3月23日, 186-194.
- 山本冴里「「東アジア」で言語教育の果たし得る、まだ果たせていない貢献」『成長するアジアにおける教育と文化交流』, 石井由理・熊井将太(編集責任), 溪水社, 2020年3月23日, 52-66.
- 鷹岡亮「アジアのICT教育」『成長するアジアにおける教育と文化交流』, 石井由理・熊井将太(編集責任), 溪水社, 2020年3月23日, 67-84.
- 熊井将太「越境する“授業研究—Lesson Study”の行方」『成長するアジアにおける教育と文化交流』, 石井由理・熊井将太(編集責任), 溪水社, 2020年3月23日, 85-103.
- 有元光彦「活用」「音便」「五段化」「一段化」「ラ抜きことば」『明解方言学辞典』, 木部暢子編, 三省堂, 2019年4月.
- 有元光彦「平川方言散歩・第3回「がんぜきの日」」『平川コミュニティ推進協議会だより』24号, 2019年8月15日, 4.

○プロジェクト名

東アジアにおける社会、経済と企業経営

○研究組織

研究代表者: 内田恭彦

研究分担者: 城下賢吾、李海峰、立山紘毅、有村貞則、豊嘉哲、山本周吾

研究協力者: なし

○研究の概要と結果

東アジアにおける社会、経済と企業経営に関し、以下の研究を進めた。

城下は日本における退職とファイナンシャルプランニングについて明らかにした。李は中国の

炭素市場における価格変動について、および中国における人々のリスク資産保有と主観的幸福感の関係について研究を進めた。測川は日本の独占禁止法下におけるデジタルプラットフォームの規制についての研究を進め、特に公正取引に関する活動が同問題の解決に寄与するか否かを考察した。またその他日本の裁判における3つの判例研究も行った。有村は多様性と国際ビジネスの関係について、研究を進めた。豊はEUの農村における移民労働者を社会的に包摂するためのコミュニティ主導型の地域開発のあり方について、研究を進めた。また山本、内田は科研費など外部資金を取得し、新たな研究を開始した。

この結果学会誌などへ11論文が発表され、学会発表は3つなされた。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等 (発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ)

李海峰 "Price volatility in the carbon market in China", *Journal of Cleaner Production*, Volume 255, 10 May 2020, 120-171.

李海峰, "Holding risky financial assets and subjective wellbeing: Empirical evidence from China", *The North American Journal of Economics and Finance*, 9 January 2020, 101142.

李海峰 "The Ownership and Its Impact on Research and Development of Micro and Small Enterprise: Evidence from China", 『東亜経済研究』(第77巻1・2号) 2019年1月。

有村貞則(2019)「多様性と国際ビジネス」古沢昌之・山口隆英編著『安室憲一の国際ビジネス入門』白桃書房, 2019, pp.205-218.

豊嘉哲 [2020]「EUの農村における移民労働者と社会的包摂のためのコミュニティ主導型地域開発 (CLLD)」、『熊本学園大学経済論集』、3月、第26巻、第1-4合併号 (山内良一教授退職記念号)、211-229頁 (招待論文、単著)。

Kazuhiko Fuchikawa, Regulations of Digital Platform Markets under the Japanese Antimonopoly Act: Does the Regulation of Unfair Trade Practices Solve the Gordian Knot of Digital Markets?, 65 *The Antitrust Bull.*102-119 (2020).

Kazuhiko Fuchikawa, Comment: Regulations of Digital Platform Markets under the Japanese Antimonopoly Act: Does the Regulation of Unfair Trade Practices Solve the Gordian Knot of Digital Markets?, by Kazuhiko Fuchikawa, *Int. J. Swarm Intell. Evol. Comput.*(2020) [Forthcomming].

Kazuhiko Fuchikawa, Droit de la concurrence, Pascale Bloch, Isabelle Giraudou, Naoki Kanayama (eds.), *Droit japonais des affaires* (2019) 87-114.

測川和彦「優越的地位及び不利益行為の判断枠組みを示した公取委審判審決：山陽マルナカ事件 公取委審判審決」公正取引831号、2020年、68-76頁

測川和彦「(株)USEN-NEXT HOLDINGSによるキャンシステム(株)の株式取得」ジュリスト 1540号、2020年、83-86頁

測川和彦「EU競争法におけるコンピューター・システムを利用した協調行為に対する規制：Eturas事件欧州司法裁判所判決」公正取引822号、2019年57-62頁

(2) 口頭発表 (発表者名、テーマ名、学会等名、年月日)

李海峰 "Financial risky assets holding and subjective wellbeing", 中国消費経済学会CCES第22回大会, 2019年11月9日, 中国廈門華僑大學。

Kengo Shroshita), Retirement and Financial Planning in Japan, 復旦大学 日本研究中心 第29回国際学術検討会, 2019年 11月23日。

山本周吾 IFABS 2019 Angers Conference (於、ESSCA School of Management - Angers.

(3) 出版物 (著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)

なし

○プロジェクト名

東アジアにおける経済社会の転換

○研究組織

代表：濱島・古賀

構成員：横田 (尚)・石・仲間・渡邊・朝水・角田・山本 (勝)・アケミク

○研究の概要と結果

昨年度とほぼ同様であるが、数年前まで「東アジア〈格差〉」プロジェクトを行ってきたが、教員の異動・退職等により、プロジェクトに一区切りを付ける必要が生じたため、〈格差〉プロジェクトの成果取りまとめと並行して、新規プロジェクト研究を指向している。こうして「東アジアにおける経済社会の転換」という広範なテーマを掲げて構成員を募り、その中からテーマを絞り込むのが本年度も課題だった。このため、内部でアイデアを出し合い、討論を進めてきており、テーマは絞られつつある。ただし、ここ数年は教員の異動が多く、さらに多くの参加者を募る可能性もあるので、さらなる絞り込みは令和元年度とし、共同研究できるテーマと国際的連携パートナーの選定、さらに研究計画の確定に進む予定である。

上述のように、教員が大量退職する過渡の時期に当たるため、研究組織として安定的な運営の軌道に載せるために時間を要しているが、もともと過渡期を予料して立てたプロジェクトであり、文系の特性を鑑みて、各研究者の自立的な研究を促進するものであることが研究科委員会としても承認されており、定性的な目標とならざるをえない。

なお大規模災害は社会に変動を引き起こしたり、社会変動の趨勢を加速させたりする。現代日本では、東日本大震災以降、被災者・被災地への社会的支援活動の創発や多様化がみられるようになってきている。また、被災者・避難者と支援者との社会的関係にも新たな形が生まれてきている。現代の災害の特質や、災害への社会的支援に着目して、日本を中心とした東アジア社会の変動と転換にアプローチする研究も、本プロジェクトの一部を構成している。

今後見込まれる成果として「新型コロナ経済社会対策とアジア諸国 (日英米を含む)」というテーマで共同研究という方向性があり得よう。このテーマで多数が担えるとしたら、山口大学では東アジア研究科の教員だけであろう。「東アジアの格差問題」、「東アジアの経済社会からの転換」

からの継承性もある。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

個別的に様々な研究を進めており、その接点、共有面、共通の問題意識の共有化を進めている。その中で、以下の成果があった。

BANERJEE Sharmistha and ASAMIZU Munehiko, Innovative Business Models with Social Impact, Journal of East Asian Studies (16) 185-204 Mar 2018

リシャラテ アビリム、朝水宗彦「シルクロードと日本人観光客」『山口経済学雑誌』67 (1/2) 45-54 2018年7月 リシャラテ・アビリム、朝水宗彦「シルクロード観光における日本人リピーター」『山口経済学雑誌』67 (3/4), 225-236, 2018年11月

朝水宗彦「地域社会の変遷と持続可能性」『東アジアの医療福祉制度』2018年3月、151-166ページ

Munehiko ASAMIZU 「Examination of Leisure and Practical Environmental Education in Japan」『Global Leisure and the Struggle for a Better World』2018年3月、243-265ページ

石龍潭「情報公開と「権利の濫用」（信息公开与权利濫用）」中国・財経法学2018年第5期5-20頁
角田由佳「看護管理者が経済学を学ぶということ：経済学の視点とはどのようなものか（看護×経済学 第1回）」『看護管理』29 (1)、2019年1月、pp.56-60、単著。

角田由佳「看護とはどのようなサービスか（看護×経済学 第2回）」『看護管理』29(2)、2019年2月、pp.170-174、単著。

角田由佳「産業としての医療と看護（看護×経済学 第3回）」『看護管理』29 (3)、2019年3月、pp.284-288、単著。

韓慧・角田由佳「日本における中国人看護師の受入れと雇用の実態」『東アジアの医療福祉制度』2018年3月、74-86ページ。

仲間瑞樹「政府の役割とは何か？ -バングラデシュの事例をもとにして」豊嘉哲編『リレー講義 アジア共同体の可能性』芦書房、2019年3月、第6章

山本勝也「インドの経済開発とアジア共同体のゆくえ」豊嘉哲編『リレー講義 アジア共同体の可能性』芦書房、2019年3月、第5章

山本勝也「＜書評＞西垣通著『AI原論 神の支配と人間の自由』講談社、2018」『山口大学哲学研究』第26号、2019年3月、pp.77-90

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

学会発表

Munehiko Asamizu 「Long-Term Tourists or Short-Term Immigrants? Work-life Balance-Oriented Human Mobility by Japanese People」『Asia Tourism Forum 2018』7 June 2018, Angers, France
Munehiko Asamizu, Sharmistha Banerjee「A Comparative Study of Indian and Japanese Management Thought」『World Congress on Vedic Foundation of Management Science 2018』September 12, 2018, Chicago, USA,

朝水宗彦「留学生と日本人学生の共同作業によるインバウンド調査」『日本観光ホスピタリティ教育学会 第18回全国大会』2019年3月3日 立命館大学大阪梅田キャンパス

横田尚俊・速水聖子・山下亜紀子「東日本大震災における遠方避難者・支援者間ネットワーク再編プロセスに関する調査研究に向けて」第136回日本社会分析学会例会、2018年12月22日

速水聖子・横田尚俊・山下亜紀子「東日本大震災からの遠方避難者における当事者間相互支援活動－ひろしま避難者の会アスチカの事例」第136回日本社会分析学会例会、2018年12月22日

山下亜紀子・速水聖子・横田尚俊「地域の連帯に基づく災害支援活動の分析－福岡県大牟田市の事例」第136回日本社会分析学会例会、2018年12月22日

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

朝水宗彦編『地域観光と国際化』くんぷる、2019年2月

石龍潭「茨木市庁舎事件」など計12事件『判例フォーカス行政法』（三省堂、印刷中）

田中重好・黒田由彦・横田尚俊・大矢根淳編『防災と支援－成熟した市民社会に向けて（シリーズ 被災地から未来を考える2）』有斐閣、2019年3月、全359ページ

(4) 科研費タイトル

横田尚俊「災害復興期における広域避難者・支援者間のネットワーク再編に関する研究」（2018～20年度、総額290万円）

古賀大介（研究代表 継続 2017年4月1日－2022年3月31日）「国際金融センター・ロンドンの再生と現代的特徴の起源－「第一次大戦期」の再検討」

角田由香（研究代表 新規 2019年4月1日－2022年3月31日）「地域包括ケアシステムを担う看護職員の雇用実態と政策課題」